



かあちやんの  
おなら

---

---

kinakoneko

---

かあちゃんのおなら

---

ぼくは かあちゃんのおならが だいきらいだ・・・。

まいにち まいにち

あさおきたら おっきなおっきなおならをするから

そのおとで ぼくは いつもめがさめる。

しばらくは ふとんをかぶって ねてるんだけど

そのうち つぎのおならが バフッ！と ぼくは つする。

しかたなく ねむいめを こすりながら おきていくと

かあちゃんは それはそれは おひさまのようなえがおで

いつも こういうんだ。

「おはようさん！

きょうも ひとりでおきれて えらかったね！」

って・・・。

ぼくはちいさくへんじして

"おはよう..."とあいさつして

せんめんじょでジャーッ！とみずをだして

かおをあらう。

なんでかあちゃんのおならはあんなにおっきいんだろう・・・。

まいにちまいにち

おんなじことをかんがえていた。

あるひ ぼくのともだちが

うちに あそびにきた。

かあちゃんは また それはそれは おひさまの ような えがおで

ぼくらを むかえ くれて

おやつを もって きて くれた。

「はい どうぞ めしあ がれ〜！」

ぼくらは おやつを のぞき こんで

ふふふ... と かおを みあ って にんまり した。

そして、かあちゃんが へやを でて いった しゅんかん・・・

ブバーッ!!!

すごいおとがさくれつした。

みんなは

なにがおきたのかときょろきょろしている。

そのおとのしょうたいをしっているのはぼくだけだったから

ぼくだけはおちついていた。

でも、はずかしくてかおがあつかった。

みんながぼくをみて ふしぎそうなかおをした。

そして またすこしして

おなじように すごいおとがした。

みんなは ガスがぼくはつしたとか なにかがおちたとか

いろいろいっていたけど

ぼくは すごくはずかしくて かおをあげられなかった。

どうしてもきになったともだちのひとりが

ついにかあちゃんにこえをかけた。

「おばさん、だいじょうぶ??? さっきのすごいおとはなんだったの???」

かあちゃんははじめはめをまるくしていたけど

にっこりわらって

「あれはおならよ！げんきなおならでしょう！？」

と、すなおにこたえてしまった。

ぼくははずかしくてはずかしくて

かあちゃんをキッ！とにらみつける。

ともだちは かあちゃんが じょうだんをいってるんだとおもって

ケラケラわらいだした。

「おまえんちの かあちゃん、おもしろいなー！！！」

ぼくは みんながわらってるのをみて ちょっとホッとした きもしたけど、

それでも やっぱり はずかしくて

かおもみみも おおかじになったきがした。

「あらあら、、、おならはね、ちょうがしっかりうごいてますよー！

おなかはげんきですよー！ってしょうこなの。

だからなーんにもはずかしがることじゃないのよ！」

かあちゃんはそういとまたにっこりわらった。

ともだちは、ちょっとびみょーなかおをしていたけど

"そっか！"

とかるくなっとくしたみたいだった。

かあちゃんがだしてくれた おやつをたべて、ワイワイさわいで、

ともだちは ニコニコしながら かえっていった。

みんながかえったあと、

ぼくはひとり げんかんにつたっていた。

かあちゃんがしんぱいしてよびにきてくれたけど、

ぼくは なんか かあちゃんのかおをみたくなかった。

したをむいたまま だまってへやにはいると、

へやのすみっこで ガチャリ...と ところにもカギをかけた。

つぎのひから、

ぼくは

がっこうで からかわれるようになった。

「かあちゃんのおならは ガスばくはつーっ！！！」

いつもなかよしだったともだちが そういってわらった。

みんなが わらいながら ぼくをみた。

ぼくは かなしくなっ て みんなが いないばしょで

こっそり ないて いちにち すごした。

ほんとはいえにもかえりたくなかったけど、

かあちゃんに なんかいいいきがして

ないたのがバレないように ゴシゴシなみだをふいて いえにかえた。

かあちゃんはいつものおひさまのえがおでむかえてくれたけど、

すぐにおひさまはくもにかくれた。

「なにがあったのかな？」

かあちゃんのこえがぼくをのぞきこんだ。

ぼくはわけわからないけど、ぶわーっ！となきだした。

「かあちゃんのせいだ！

かあちゃんがみんなのまえであんなおならなんかするから・・・！」

かあちゃんはちょっとこまったかおをして ぼくのあたまをなでながら

ふう... といきをはいた。

「おまえは げんきなことが はずかしいのかい？」

「ちょうがげんきだということは からだがキレイだということなんだよ・・・！？」

「ぼくは それでも いやだった。」

「だからって、ともだちのまえで しなくてもいいじゃんか・・・！」

かあちゃんはすこしのあいだだまっていたけど、

しゃがみこんでぼくのかおをりょうてではさんだ。

「かあちゃんのおならはてんかいっぱいなんだよ。

な～んにもはずかしがらなくていい。

はなをつままなきゃならないようなくさ～いおならじゃないんだからね。

きれいなもんさ！」

ぼくはまだないていたけど、

ちょっとだけかおをあげてかあちゃんをみた。

かあちゃんは そんなぼくを ぎゅーっとだきしめてくれたんだ。

「おまえのおならだって くさくないだろ？」

かあちゃんのは おとがおおきいだけ。

よくいう においなんて ありゃしない。りっぱなもんだよ！

だれに なにいわれたか 知らないけど、どんっ！と むねはって りゃいいの。

でもものださないほうが からだにわるいんだから。

きになるんだろうけど、きにしないでいいんだよ。

かあちゃんの子だ！

じしんもって どうどうとしてれば だいじょうぶ！！！」

ぼくはもういっかないた。

なんだかわからないけど、いっばいないた。

いつもなら

「いつまでもないてないではやくかおあらっといで!!!」

ってちょっとむずかしいかおでいわれるけど、

きょうはかあちゃんはそんなことひとつもいわなかった。

なきながら ぼくは いろんなことを かんがえた。

"なんで かあちゃんのおならは あんなにおおきな おとがするんだらう？"

とか

"なんで くさくないんだらう？"

とか。。。

そういえば ぼくも おならしたとき くさくない！

みんな おならは くさい！ っていうけど、

ぼくも かあちゃんも ほんとうに くさくないんだ。

ぼくは いっぱい ないて から おふろ には いて かも を あら った。

プッ...!

なん か かわ いら しい おと が して おな ら が で た。

ぼく は いそ い で じぶ ん の おし り が あっ た あた り を くん くん に おい を か い で み た。

"くさくない！"

なんども くんくんしてみたけど ぜんぜん くさくなかった。

おしりにてをあてて そのても におってみたけど やっぱりくさくなかった。

ぼくは ちょっとうれしくなった。

"かあちゃんとおんなじだー。"

かあちゃんのおならは やっぱりみんなのまえでされるといやだけど、

においがしないのは すごいとおもった。

それから ぼくは みんなにからかわれても

ぎゅっとはをくいしばってがまんするようになった。

-----

そんなあるひ。

がっこうにでんわがあって、かあちゃんが こうつうじこにあったから

すぐびょういんにいくように... って!!!

ぼくは タクシーにのせられてびょういんにいった。

びょういんにいくとかあちゃんはしゅじゅつしつにはいていた。

ぼくはすごくすごくしんぱいだっただのになぜかなけなかった。

こわくてかなしくて、

じぶんがどこにいてなにをしているのかもわからなかった。

いっばいいっばいなんじゅうねんもじかんがたったきがした。

かあちゃんはあっちこっちほうたいだらけになってしゅじゅつしつからでてきて、

なんにちも

なんにちも

ぼくがいくらよんでもめをあけてくれなかった・・・。

ぼくは、、、

ずっと かあちゃんのねているかおを みているしかできなくて・・・。

「かあちゃん・・・ かあちゃん・・・」

なにもいってくれない ほうたいだらけのかあちゃん。

かあちゃんは いつめをあけてくれるんだろう・・・。

かあちゃんがめをあけてくれるのをまっていたあるひ。  
ぼくがいすからたちあがるあとしたら ブッ...とおならがでた。

そのあと もういっかい・・・。

ぼくはおならのおとをきいて なけてきた。

もう なんにち かあちゃんのおならをきいてないんだろう・・・。

プ・・・ッ。

そのとき ぼくはきづいてなかったけど、

あのとき、ぼくのおならにかあちゃんがおならでこたえてくれてたんだって！

ずっとずっと じかんがたって、

かあちゃんがめをあけてくれたとき、

ぼくはずーっと いちにちじゅう ないていたかもしれない。

かあちゃんにくっついて、

かあちゃんのかおをみては

ずっとずっと ないていたきがする。

かあちゃんは こうつうじこをしてから あんなおおきなおならはでなくなったけど、

たまに ぼくはつする。

ぼくはそれをきいて おおわらいする。

かあちゃんもいっしょにおおわらいする。

かあちゃんのおなら、だいすき！

かあちゃんのげんきなおなら、ぼく だいすきだよ！

"おいしいおやさいいっぱいたべて、

ごはんもいっぱいおかわりして、

いつも おひさまみたいなえがおでしたら、

げんきなおならになるんだよ！！！”

そういつて かあちゃんは それはそれは おひさまのえがおで

にっこりわらった。

かあちゃん！

いきていてくれてありがとう！

かあちゃんのおならは

いつだってぼくのいっとうしょうだよ！

—おしまい—